

令和5年度 那須議会フォーラム（池田・大沢地区）

意見に対する回答

※意見に対する回答は、常任委員会が町所管課にヒアリング等を行い、委員会の認識としたものを掲載しています。

総務産業常任委員会所管

◎代表的な意見

（農林振興関係）

○意見…酪農家の後継者がいない、困窮している。

●回答…後継者不足、労働力不足は農業に限らず、町内各産業分野においても課題となっている。議会としても課題解決に向けての対応を考えていきたい。

（建設関係）

○意見…68号橋が狭い。路面状況が悪い。交通量が多いためすぐ痛む。拡張工事をいつやるのかはっきりしてほしい。道路の簡易的な舗装ではすぐ悪化する。

●回答…開拓橋拡張工事は最短で5、6年後となる。実施自体は決定事項となっているが、設計・用地確保などこれから始まる。議会としても今後の動向を注視していく。

（観光商工）

○意見…友愛の森に子供向けの遊び場を設置してほしい。トイレの故障への対応が遅い。

●回答…子供向けの遊び場の設置に関しては、現在設置予定はなく、今後の需要に応じて検討を進める。道の駅のトイレは通常より使用頻度が高いため、故障も多い状況にある。随時対応しているが、間に合わない状況にある。

◎参加者からの意見

（防災・自治会）

○意見…防災無線の追加は町で考えていないか。

●回答…防災無線が聞き取りにくい状況は町も把握しているが、国の指導のもと、アナログ無線からデジタル無線へ切り替わっており、デジタル無線であるがゆえの聞き取りにくさが出てきている。安全安心メールを配信しているが、固定電話への情報発信や、LINEを活用した情報伝達を充実させていく方針であるため、基地局の追加は現在考えていない。

○意見…大谷保育園跡を自治会の拠点として活用しているが、トイレなどの環境が整っていない。避難場所となる場所の設備を改善してほしい。

●回答…旧大谷保育園は町指定の避難場所としては想定していないが、各地域における避難場所は課題である。自主防災組織の結成、運営の中で補助、整備ができる可能性はある。

○意見…自治会に入っていない人への情報提供は、自治会に入っていないなくても広報を配る方法はあるのでは。

●回答…道の駅やスーパーなどに町広報を配置したり、マチイロ（PCなどへの情報配信）の仕組みを整備している。希望者には有料であるが郵送の対応も行っている。

（農林振興関係）

○意見…大谷地区は酪農家が多い。牛乳が余っている状況だが補助はどうなっているのか。

●回答…牛乳の消費拡大を図るため、牛乳乾杯条例を定め推進をしているものの、牛乳余りを解消するための補助金を出す考えはない。

（建設関係）

○意見…町道の陥没（7、8年未舗装。那須高原小裏からロイヤルロードに抜ける道）。

●回答…委員会議員から指摘がなされ、すでに対応が完了している。

○意見…68号線拡張の陳情を出したが500mしか進んでいない。

●回答…土地所有者不明のため用地確保が難航しているが、現在解決策を検討している。

○意見…街灯を増やしてほしい。

●回答…街灯については町長名で県に要望書が提出されている。

（観光商工）

○意見…ファシリティが足りない。（トイレ、ドッグラン、キャンピングカーへの配慮）特徴のある道の駅へ。歩道がない。通行量に道路があっていない。

●回答…友愛の森駐車場は宿泊場所ではないため、車中泊をするための配慮をする考えはない。ドッグランは必要に応じ検討を行う。トイレについては各施設には整備がなされるが、北側駐車場付近への設置は現時点では考えていない。

○意見…友愛の森の電気自動車の充電スポットを増設してほしい。

●回答…6機の増設を予定している。

民生文教常任委員会所管

◎代表的な意見

（除去土壌集約関係）

原発事故に伴う除去土壌等については、町内の住宅や公共施設等の敷地内に現在も一時保管している状況です。

町は、これらの除去土壌等を1カ所に集約することで、保管者の負担解消や管理の効率化、管理体制の強化を図るため、集約候補地についての調査を進めてきました。

上記の調査結果を踏まえ、安全性、効率性、周辺環境への影響などを総合的に評価した上で、令和5年5月20日に周辺地域の住民や関係者を対象に説明会を開催しました。現在も個別に対応している状況です。

今後、国等関係者と調整を図りながら、安全で、町民の皆様に安心いただけるよう、集約事業の具体化を進め議会としても継続的に注視して参ります。

（交通関係）

急速に進む少子高齢化や人口減少への対応など、持続可能なまちづくりと一体となった公共交通体系を構築することを目的とし、「那須町地域公共交通網形成計画」を策定し、国等の支援を受けながら、デマンド型乗合交通及び那須町民バスの見直し等、地域公共交通活性化を目的とした事業を展開してきました。以上の状況を踏まえ、「暮らしやすい那須町」の実現に向け、地域の交通資源の活用、持続可能性、まちづくりとの連携等に留意した「地域公共交通計画」を策定し、引き続き国等の支援を受けながら、地域公共交通活性化を目的とした事業展開を進めて参ります。

また、令和5年10月から令和6年9月まで、特定の地域にお住まいの方のご自宅と指定目的地間のタクシー料金が定額になる「那須町定額タクシーサービス」の実証運行を実施しています。

（景観関係）

本町の豊富な景観資源の保全を目的として、快適な生活環境を次世代に継承していくことで『那須町景観計画』が策定されました。さらなる適正な指導と管理を推進するため、那須町景観計画及び那須町景観条例の一部を改正し、工作物の定義のなかに「太陽光発電施設」を追加いたしました。

また、良好な景観の形成が特に必要とされる景観形成重点地区内については、太陽光発電施設に関する個別の景観形成基準を設けております。

議会としても町の動向を注視してまいります。

◎参加者からの主な意見

○意見…廃校になった跡地は、より良い活用をして欲しい。美術館などを希望したい。

●回答…これまで町は廃校舎を民間に貸し出している。旧朝日小は地域支援を目的とした多機能施設、旧美野沢小は観光宿泊施設、旧芦野小は特別養護老人ホーム、また、旧大沢小学校は会員企業の活動拠点や新たな実証実験の場として地域活性化とイノベーションに繋げるため施設利用を提案し、採択されました。これからも、民間事業者へ町にとって、最適な活用方法を提案して参ります。

○意見…町有施設のバリアフリー化。車いす対応、洋式トイレの推進は

●回答…「那須町公共施設再編計画」に基づき、将来の町の財政状況や人口規模を見据えつつ、多様化する町民ニーズへの対応 や住みよいまちづくりを実現するための最適な公共施設の体系構築を推進してまいります。

○意見…空き家問題。町では把握できているのか

●回答…人口減少や超高齢社会の進行に伴い、空き家等の一層の増加が見込まれます。町は、「那須町空き家バンク事業実施要綱」を策定し、空き家の有効利用を促進しています。一方で、空き家の現状把握にドローンや地域おこし協力隊を活用し空き家の把握に努めます。